

がんの診断や治療のために慶應義塾病院で受けられた患者さんの検体および情報の研究利用についての
お知らせ

研究責任者 慶應義塾大学医学部先端医科学研究所細胞情報研究部門 教授 河上裕
実務責任者 慶應義塾大学医学部先端医科学研究所細胞情報研究部門 講師 谷口智憲

このたび当院では、上記のご病気で入院・通院されていた患者さんの保存検体や診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を河上裕までご連絡をお願いします。

1. 対象となる方

西暦 2000 年 4 月 1 日より、【慶應義塾大学病院】にて【がん】の【診断、治療】のため【入院、通院】し、【診療、手術、検査など】を受けた方、およびがんの免疫療法を受けた方。

2. 研究課題 がん微小環境のがん進展促進的病態の解明と新規標的分子同定によるがん診断・治療法の開発

本研究の目的・方法

がんの予防や治療を目指した研究のためには、それぞれのがんが、どのように生まれ、生きて増えていくのか、そのメカニズムを解明して、その特徴にねらいを定めて治療することが必要です。これまでの研究により、がん細胞が死なずに増えていく機構、がん細胞がまわりの正常組織に入り込んでしみ込んでゆく機構、そして他の身体の場合に移動して新たに増えていく(転移)機構などが明らかになってきました。しかし、がん細胞は、がん細胞のまわりに存在して栄養を送っている正常な細胞、分子、血管などに影響を与えたり、その微小環境によってがん細胞の性格が影響を受けることもわかってきました。したがって、がんが生まれて増えていく過程には、がん細胞自身だけではなく、がん細胞が育ちやすい環境をつくりだすがん細胞周囲の細胞たちとの相互作用が重要な役割を果たしていると考えられます。本研究は、がんの診断や効果的ながん治療開発のために、がん細胞自身やがん細胞が育ちやすい環境をつくりだすがん細胞周囲の細胞たちの特徴、そしてそれら細胞たちの関わり(相互作用)を解析し、がんが生存していくのに必要なメカニズムを解明することです。

本研究実施に際し、新たに患者さんからの同意を得る場合だけでなく、既に慶應義塾病院で、診断、治療を受けられた患者様ならびにがん免疫療法の臨床試験に参加された患者様の検体(病理標本や血清など)、診断で使用されず保存されている検体を微量用いて、免疫調節分子の解析も行い

ます。また、診療記録（カルテ）の中から、各種の診療情報（年齢・組織型・進行期・予後など）を記録した上で、免疫調節分子の情報とともに分析いたします。

協力をお願いする内容

研究において利用させていただく検体は既に診断治療のために採取されたものの残りをを用いるので、患者の皆さんへの身体的負担はありません。また、診療記録（カルテ）の中から、各種の診療情報（年齢・組織型・進行期・予後など）を、免疫調節分子の情報とともに分析いたします。

研究期間 許可日～西暦 2020 年 4 月 30 日

本研究終了後は少なくとも研究終了報告日から 5 年、または最終の研究結果報告日から 3 年のいずれか遅い方までデータを保管させていただきます。

プライバシーの保護に関して

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、臨床写真、カルテ情報です。個人情報（氏名、住所、電話番号など）は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、第 3 者にはどなたのものかわからないように匿名化し使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と匿名化データを結びつける情報（連結情報）は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また、研究終了時に完全に抹消します。
- 4) なお連結情報は当院内のみで管理し、他の研究機関等には一切公開いたしません。

平成 27 年 4 月 11 日

慶應義塾大学医学部先端医科学研究所細胞情報研究部門 河上裕

連絡先： 03-5363-3778（直通）